

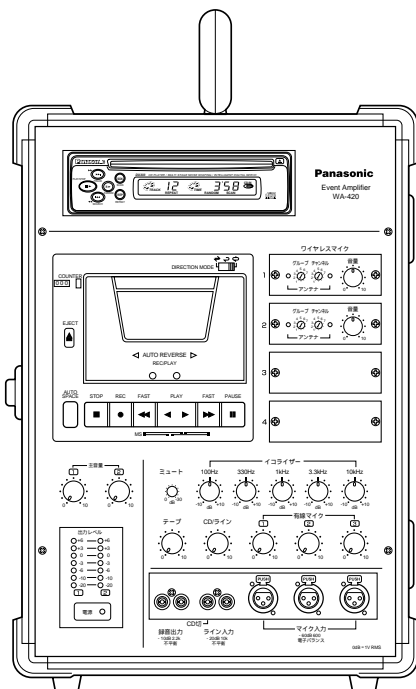
イベントアンプ

取扱説明書

品番 WA-420

このたびは、イベントアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付



上手に使って上手に節電

もくじ

安全上のご注意	2
設置上のご願い/使用上のご願い	4
各部の名前と働き（前面）	5
優先放送機能について	6
音場補正イコライザーの説明	6
リミッタ機能について	7
リミッタ機能の解除のしかた	8
各部の名前と働き（後面）	10
スピーカーの接続方法	11
ローインピーダンススピーカーの接続	11
ハイインピーダンススピーカーの接続	12
カセットデッキ部の説明	13
各部の名前と働き	13
操作のしかた	14
早送り・巻き戻しのしかた	16
一曲頭出し（自動選曲）のしかた	17
一曲頭出し録音のしかた	17
走行モードについて	17
カセットテープについて	18
チューナーユニットについて	20
受信グループとチャンネルの設定について	20
別売チューナーユニットの取付方法	21
アンテナについて	24
CD部の説明	27
各部の名前と働き	27
ディスプレイ表示	28
操作のしかた	29
ご使用になる前に	31
コンパクトディスクの取扱いについて	32
接続例	33
点検方法	34
キャンタイプコネクターの説明	36
仕様	37
移動（輸送）時について/付属品	裏表紙

はじめに

操作のしかた



付録

安全上のご注意




必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。







表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」の内容です。
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

警告

異物を入れない  水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因となります。 禁止 ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。	分解しない、改造しない  火災や感電の原因となります。 分解禁止 修理や点検は、販売店にご連絡ください。	不安定な場所に置かない  落下などでけがの原因となります。 禁止
電源コードを熱器具に近づけない  コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。 禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない  感電の原因となります。 禁止	電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く  コードが傷つき、火災や感電の原因となります。 抜くときは電源プラグを持って抜いてください。

屋外で使用中に雷が鳴り出したら、体から離す



落雷の原因となります。

ただちに使用をやめ、体からマイクを遠ざけてください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いが出るなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

感電に注意する



感電注意

使用中、後面のスピーカー端子をさわると感電します。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)



傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因となります。

禁止

コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる



プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります。

電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

濡れた手で電源プラグの抜き差しはしない



禁止

感電の原因となります。

コンセントや配線器具の定格を越える使いかたや、交流100V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線等で、定格を越えると発熱による火災の原因となります。

⚠ 注意

通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に設置しない



禁止

火災や感電の原因となります。

踏み台や腰掛けにしない



禁止

けがの原因となります。

挿入口に手・指や異物を入れない



禁止

ディスク挿入口に手・指や異物を入れるとけがや発煙、発火の原因となります。

設置上のお願い

ご使用いただく電源はAC100V 50 / 60Hzです。

本機は防水形ではありません。

雨滴などが付着しないようご注意ください。水にぬれた場合は乾いた布でよく拭いてください。

本機の設置場所は

夏季の閉めきった自動車内、直射日光の当たる所および暖房器具近くは避けてご使用ください。

水平位置でご使用ください。

また、振動の多いところで使用すると、音飛びを起こすことがありますので避けてください。

ワイヤレスマイクについて

デッドポイントにご注意ください。

金属物の近くや、鉄筋コンクリートの狭い部屋でワイヤレスマイクを移動しながら使用しますと、電波の反射や干渉により急に音が出なくなることがあります。これをデッドポイントと呼んでいます。

デッドポイントを解消するためには、本機的位置を金属製の机やロッカーなどから1m以上はなすか、設置場所を1～2m動かしてください。

ダイバシティ効果について

十分なダイバシティ効果を得るために、ワイヤレスマイクは、本機から30m以内で使用することをおすすめします。

近くの妨害電波にご注意ください。

100m以内に同じ周波数の妨害電波、高周波ミシン、高周波乾燥機など高周波を使う機械や各種直流モーター、自動車など電気火花を発生する機械がないか確かめてください。

やむをえず雑音源の近くで使用する場合はワイヤレスマイクとワイヤレスアンプの距離を2～10m以内にしてください。

送信所の送信アンテナの直下では到達距離が短くなることがあります。

使用上のお願い

他のワイヤレス機器と組み合わせてご使用になるとき

- マイクロホンどうしは50cm以上離してください。
- 本機とワイヤレスマイクの距離は2m～10m以内にしてください。なお、2m以内に近づきますと飛び込みや混信などが発生することがあります。

次のような場合、本機CD部のレンズやディスクに露（水滴）が付いて正しく再生できないことがあります。このような場合は電源を入れて1～2時間待ってからお使いください。

- 湿気の多いところに置いてある場合
- 冷えたところから急に暖かいところに移動した場合

CD部のレンズが汚れますと、再生できなくなることがありますので手がふれないようご注意ください。

持ち運びにご注意ください。

運搬中、強度の振動を与えたり、投げ出したり、乱暴な取り扱いをしないでください。回転機構に異常が生じたり、破損することがあります。

お手入れは

ケース外部の汚れは、電源を切り、乾いた布でふいてください。ほこりが取れにくいときは、薄めた台所洗剤（中性）をやわらかい布に浸み込ませ、よくしぼり軽くふいてください。

ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。

化学ぞうきんをご使用の際はその注意書きに従ってください。

各部の名前と働き（前面）

カセットデッキ部

参照 P.13 ~ 19

主音量1 調節つまみ [主音量1]

スピーカー出力1に接続されたスピーカー出力の音量を調節します。

主音量2 調節つまみ [主音量2]

スピーカー出力2に接続されたスピーカー出力の音量を調節します。

メモ

マイクへ過大入力が入ったときや、各入力・内蔵デッキの音量調節つまみを上げ過ぎますと、スピーカー出力(1/2)とライン出力から歪んだ音が出力されます。そのような場合はマイクを口元から離すか、各入力・内蔵デッキの音量調節つまみを各々歪まないように調節してください。主音量(1/2)調節つまみを絞っても歪んだ音は変わりません。

出力レベル表示灯[出力レベル]

スピーカー出力1/2の出力レベルをそれぞれ表示します。赤色のLEDが点灯しないように各音量を調節してください。

電源表示灯 [電源]

本機の電源が入ると赤色に点灯します。

テープ音量調節つまみ [テープ]

カセットデッキの音量を調節します。

録音出力端子 [録音出力]

(- 10dBV 2.2k 不平衡)
カセットデッキなどを接続します。この出力はモノラルです。接続デッキがステレオタイプの場合はL/Rに関係なく接続します。

ライン入力端子

[ライン入力/CD切] (- 20dBV 10k 不平衡)
カセットデッキなどを接続します。本機はモノラルですのでステレオで入力された音もモノラル出力になります。又接続するピンジャックが片方の場合、

CD デッキ部

参照 P.27 ~ 32

ワイヤレスチューナーユニット

挿入口 [ワイヤレスマイク 1/2/3/4]
別売のチューナーユニットを2個増設することができます。

参照 P.20 ~ 23 ワイヤレスチューナーユニットの取付方法

ミュートレベル調節つまみ [ミュート]

[ミュート]

参照 P.6 優先放送機能について

イコライザー音質調節

つまみ [イコライザー]

参照 P.6 音場補正イコライザーの説明

マイク 1/2/3 音量調節

つまみ [有線マイク 1/2/3]

本機のマイク 1/2/3 入力に接続されたマイクロホンの音量を調節します。

有線マイク 1/2/3 入力

[マイク入力]

(- 60dBV 600 電子バランス)
各マイク入力にマイクロホンを接続します。

参照 P.36 キャノンタイプコネクターの説明

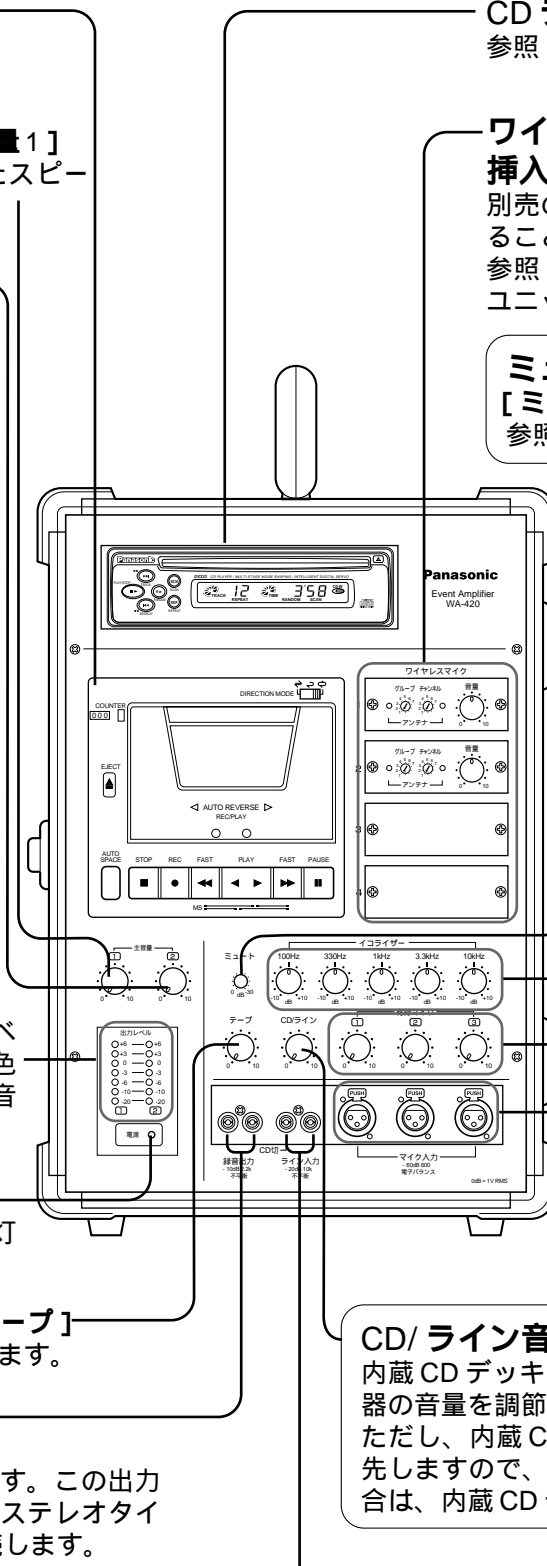
CD/ ライン音量調節つまみ [CD/ ライン]

内蔵 CD デッキまたはライン入力に接続された機器の音量を調節します。

ただし、内蔵 CD デッキよりライン入力の方が優先しますので、ライン入力に機器を接続された場合は、内蔵 CD デッキの出力ができません。

「CD切」側に接続します。

ライン入力に機器を接続されている場合は、内蔵 CD デッキの出力ができません。内蔵 CD デッキを使用する場合はライン入力に機器を接続しないでください。



各部の名前と働き（前面）

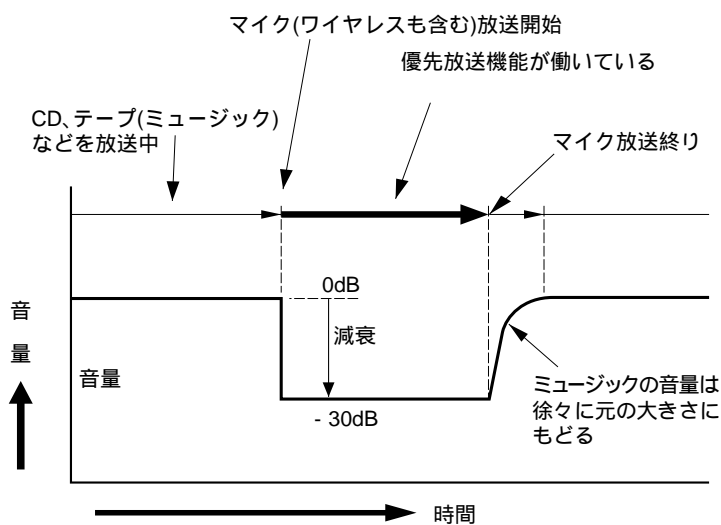
優先放送機能について

本機は優先放送機能付です。マイク放送（ワイヤレスマイク放送も含む）時には、内蔵のカセットデッキやCDデッキ、ライン入力のミュージック放送の音量を自動的に減衰します。

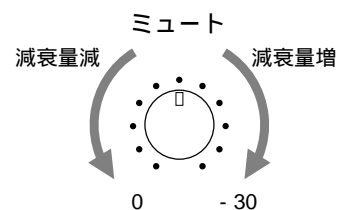
減衰量はミュートレベル調節つまみで調節する事ができます。右へ回すと、減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。

マイク放送が終わるとミュージック放送の音量が自動的に元の音量に戻ります。

図1



ミュートレベル調節つまみ



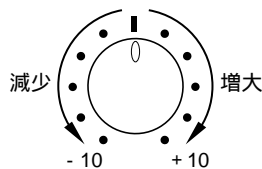
左回しきり（0）位置では、優先放送機能が働いてもミュージック放送の音量は上がりません。

音場補正イコライザーの説明

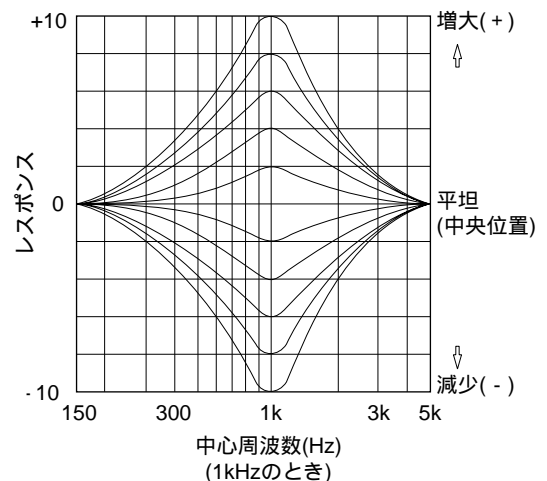
5ポイントの各周波数（100Hz / 330Hz / 1kHz / 3.3kHz / 10kHz）でのレベルを +10dB ~ -10dBまで連続的に変化させるための調節つまみです。各音場に合わせ、5ポイントの周波数特性を、必要に応じて補正することにより、マイク放送時のハウリング（ブーンまたはキーンという音が出る）を抑えたり、反響の多い場所で明瞭度を上げるのに効果があります。

周波数特性のレベル調節とめやす

イコライザー調節つまみ

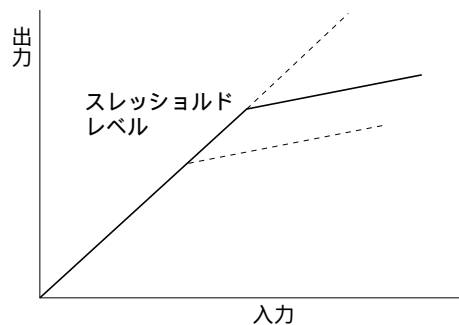


- つまみ位置が中央でフラットな周波数特性です。
- つまみを「+」方向でレベルが最大10dB増大します。
- つまみを「-」方向でレベルが最大10dB減少します。



リミッタ機能について

マイク放送時やワイヤレスマイク放送時（マイク系放送）には過大入力時のひずみを軽減するリミッタ機能が組み込まれています。



メモ

本機のリミッタ機能を有効にご使用いただくため、次の項目をお読みになり適切な設定の上ご使用ください。

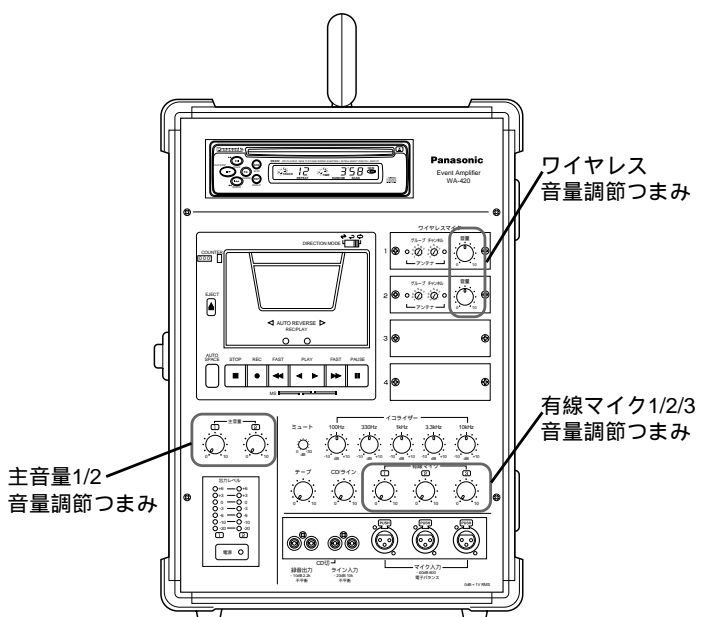
1. リミッタ効果について

工場出荷時は「リミッタ動作入」に設定しています。

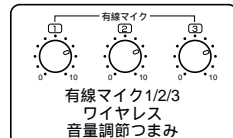
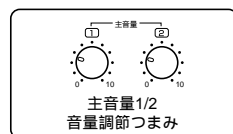
リミッタ機能はマイク入力系全部（有線マイク入力1/2/3、ワイヤレスマイク4系統）に同様に動作し、マイク回路への過大入力時のひずみやハウリングなどを軽減する効果があります。（別売ワイヤレスチューナーユニット2台、増設時）

2. リミッタ機能を効果的にご使用いただくために

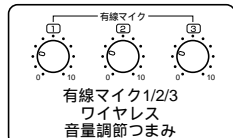
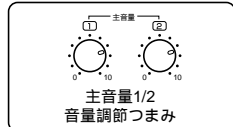
本機のマイク入力是有線マイク音量調節つまみと主音量1/2音量調節つまみの両方で出力レベル（スピーカーの音量）を調節できるようになっています。下図のような各つまみの位置に設定することで、リミッタが動作し始めるマイク入力のレベルを調節することができます。使用状況に合わせて各音量調節つまみを設定してください。



比較的小音量でリミッタが効き始める設定



比較的大音量でリミッタが効き始める設定



はじめに

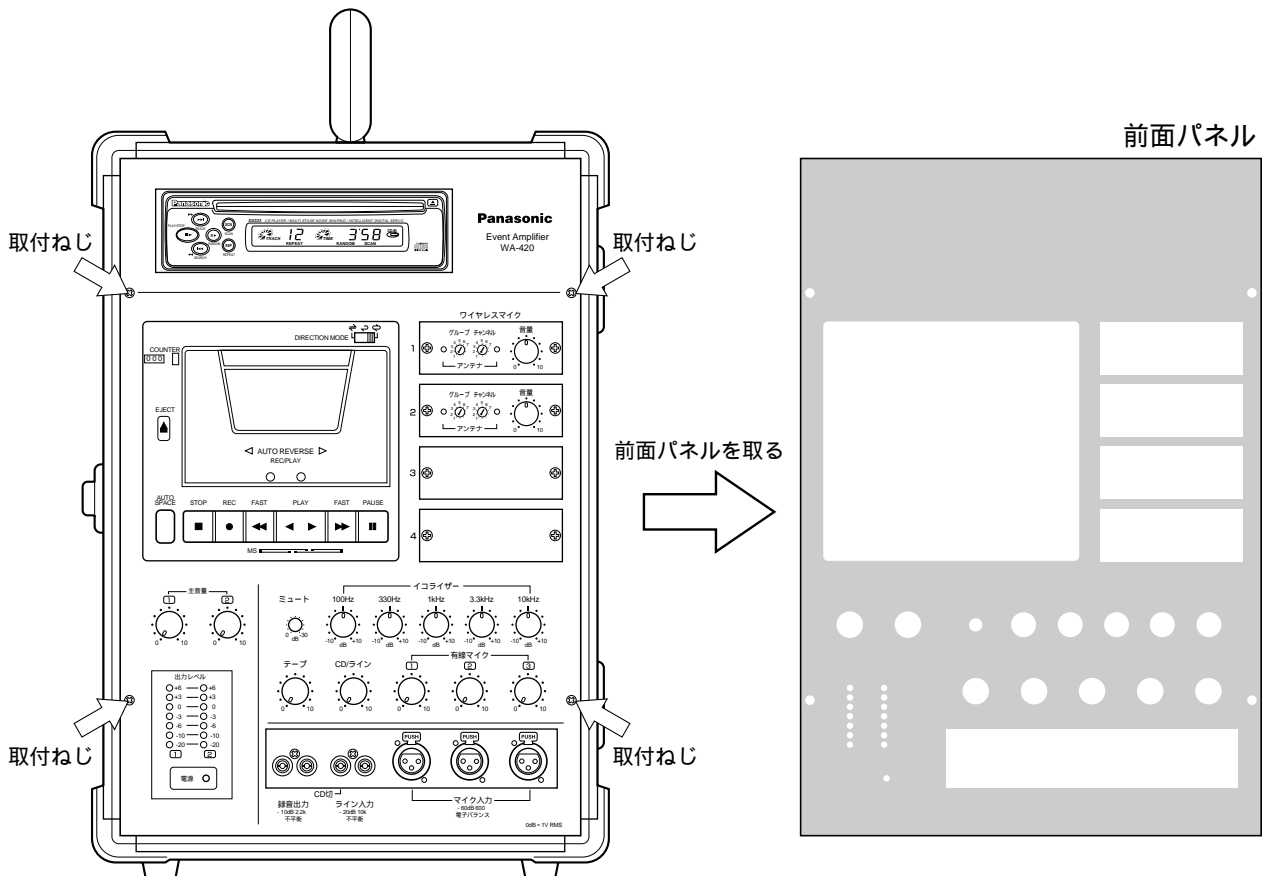
各部の名前と働き（前面）

3. リミッタ動作の解除について

本機は性能検査のためリミッタ動作入/切機能を内蔵しています。
工場出荷時の設定はリミッタ動作“入”となっていますが、ご使用状況でどうしてもリミッタ機能ははずしたい場合は、リミッタ動作“切”にすることもできます。
詳しくは、リミッタ動作の解除について、を参照してください。

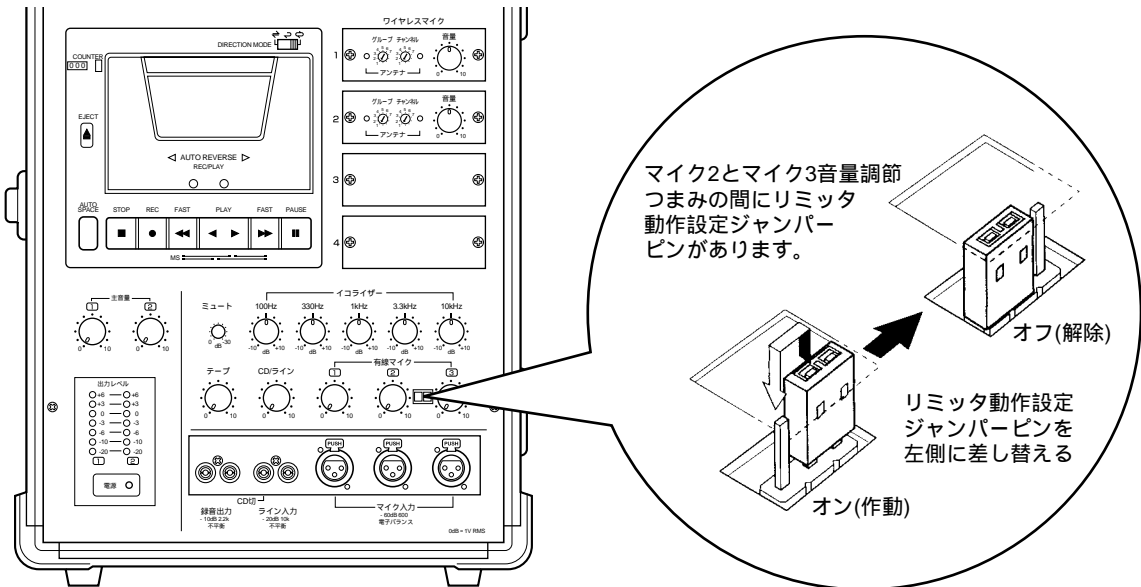
リミッタ機能の解除のしかた

1. 電源を切り、前面パネルの取り付けねじ4本をはずし、前面パネルを取る。



2. リミッタ動作設定ジャンパーピンを差し替える

下図の要領でジャンパーピンを差し替えてください。



3. 前面パネルを取り付ける

はずした4本のねじで前面パネルを元どおりに取り付けてください。

メモ

- リミッタ動作設定ジャンパーピンを差し込んでいない状態では切(解除)にはなりません。

各部の名前と働き（後面）

アンテナ感度切換スイッチ [0 / -10dB]

ワイヤレスチューナーユニット組込時、アンテナの感度を使用状況に合わせて0 / -10を選択してください。出荷時のスイッチ設定は“0dB”になっていますが、1) ~ 4) の場合は“-10dB”に切り替えて感度を落としますと、混信を防ぐことができます。

- 1) 他のグループでのマイクを近接場所（30m以上離れた場所）で同時に使用する場合。
- 2) 同一グループのマイクを近接場所（100m以上離れた場所）で同時に使用する場合。
- 3) 受信アンテナの設置場所によって、マイクが2m以内の距離に接近する場合。
- 4) その他、電波障害による混信がある場合。

メモ

アンテナ感度切替スイッチを“-10dB”に切り替えた場合、ワイヤレスマイクの通達距離は1/2~1/3に減少します。

放熱器

注意

使用中または使用后すぐに放熱器にさわらない
放熱器が熱くなっている場合がありますので、やけどの原因となることがあります。

電源スイッチ [電源入/切]

このスイッチを押して電源を入/切します。

AC電源入力端子

[AC100V]
付属のAC接続コードを使用し、電源コンセントに接続してください。

警告

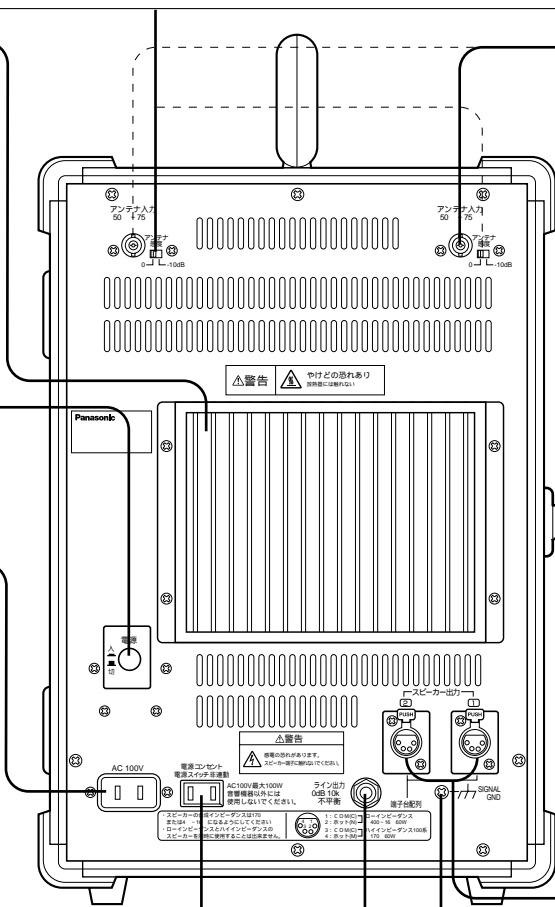
付属又は指定の接続コード以外は使用しない
火災・感電の原因となります。

電源コンセント [AC100V 50/60Hz]

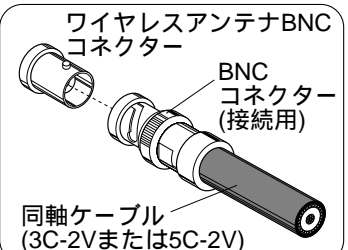
音響機器への電源を最大100Wまで供給できます。電源スイッチとは非連動です。本機の電源スイッチを「切」にしても接続している機器の電源は切れません。

警告

接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにする
火災の原因となります。



アンテナ入力端子 [/]
ワイヤレスチューナーユニット組み込み時、別売のワイヤレスアンテナWX-4980またはWX-A8105を接続します。接続には必ずBNCコネクターをご使用ください。参照 P.24 ~ 27アンテナについて



メモ

BNCコネクターからはファンタム電源 (DC9V) が出ています。ショートさせないようにご注意ください。また指定のワイヤレスアンテナ以外は接続しないでください。

スピーカー出力端子

[スピーカー1/2]
4Pキャノンタイプコネクターです。参照 P.11 ~ 12スピーカーの接続方法

アース端子 [SIGNAL GND]

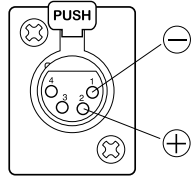
このアース端子は他の音響機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アース (接地用) ではありません。

ライン出力端子 [0dB 10k 不平衡]

別売のアンプ内蔵モニタースピーカーWS - 63を接続します。

スピーカーの接続方法

ローインピーダンススピーカーの接続



ローインピーダンススピーカーを接続する場合は、付属のキャノンタイプコネクタを使用してください。

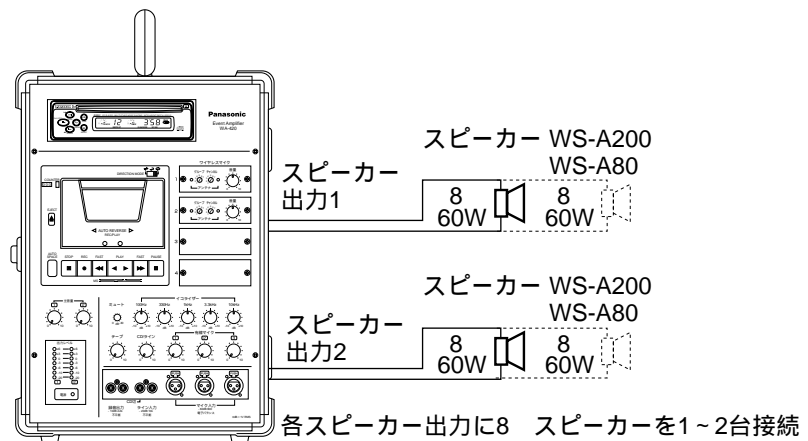
ローインピーダンス出力は左図のようにコネクタに結線されています。

参照 P.32キャノンタイプコネクタの説明

本機のスピーカー出力1/2に各々接続できるスピーカーは下表のとおりです。

適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
4 ~ 16	60W以上

図1 接続例

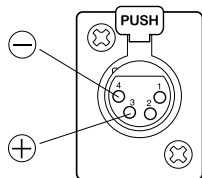


重要

- ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
- 多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが4Ω以下にならないようにしてください。
- 使用するスピーカーの定格入力、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

スピーカーの接続方法

ハイインピーダンススピーカーの接続



ハイインピーダンススピーカーを接続する場合は付属のキャノンタイプコネクタを使用してください。

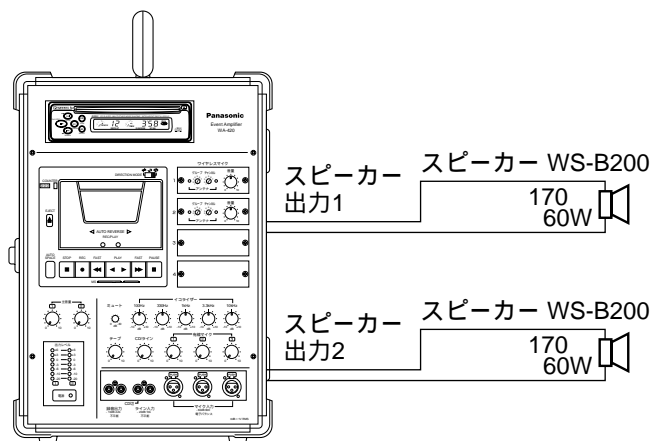
ハイインピーダンス出力は左図のようにコネクタに接続されています。

参照 P.32キャノンタイプコネクタの説明

本機のスピーカー出力1/2に各々接続できるスピーカーは下表のとおりです。

適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
170 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が60W以内

図2 接続例



重要

- スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。
- スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
- ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。



警告

スピーカー端子に触れない

- 出力端子には、定格出力時に100Vの電圧がかかり、感電の原因となります。

カセット部の説明

各部の名前と働き

リセットボタン

このボタンを押すとテープカウンターの数字が“000”に戻ります。

テープカウンター

【COUNTER】

録音時このカウンターの数字をメモしておくで録音開始時や希望位置を捜し出すのに便利です。

取り出しボタン【EJECT】

このボタンを押すとカセットホルダーが開きテープの挿入、取り出しができます。

メモ

停止ボタンを押してテープの動作を止めてから押してください。

オートスペースボタン

【AUTO SPACE】

録音中または録音待機中にこのボタンを押すと、点灯している走行方向に約4秒間無録音部分を作り待機状態になります。参照 P.17一曲頭出し録音のしかた（「無録音部分を作るには」）

停止ボタン【STOP】

録音、再生、早送り中のテープを止めるときに押します。

録音ボタン【REC】

このボタンを押すと正方向への録音が始まり、録音表示灯()が赤に、走行方向表示灯(▶)が緑に点灯します。もう一度走行ボタンを押すとテープが反転し逆方向に録音が始まり録音表示灯()と逆方向の走行表示灯(◀)が点灯します。

参照 P.15録音のしかた

メモ

テープ走行中に電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりした場合、カセットテープが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントに差し、再度電源スイッチを入れてカセットテープを取り出してください。

テープ走行モード 選択スイッチ

【DIRECTION MODE】

テープの走行モードを選択するスイッチです(⇒↺⇄)の3つのモードから1つ選択します。

参照 P.17走行モードについて

カセットホルダー

早送りボタン

【FAST ◀▶】

このボタンを押すと矢印の方向にテープが早送りされます。(◀又は▶)再生中にこのボタンを押すと頭出しとなります。参照 P.16一曲頭出しのしかた

一時停止ボタン【PAUSE】

このボタンを押すと録音、再生中でもその間テープを止めることができ、一時停止表示灯()が黄色に点灯します。このボタンを再び押すと録音、再生が再開されます。

走行ボタン【PLAY】

このボタンを押すと、正方向に再生を開始し走行表示灯(▶)が点灯します。もう一度押すとテープが反転し逆方向の再生を開始し、逆方向の走行表示灯(◀)が点灯します。

カセット部の説明

操作のしかた 再生のしかた



注意

電源を入れる前には各音量を最小にする

- 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

1. 電源を入れる

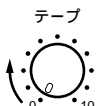
電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

メモ

電源投入時にカセットが一瞬動作することがありますが異常ではありません。

6. 音量を調節する

音量をテープ音量調節つまみで調節してください。

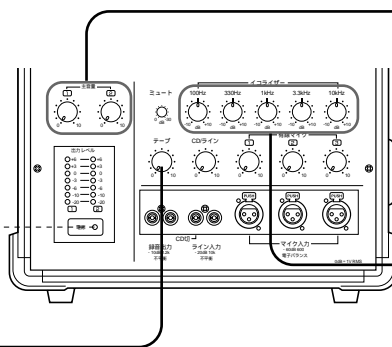


2. テープを挿入する

取り出しボタンを押し、カセットホルダーを開きテープを挿入します。

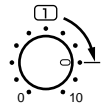
8.

再生を止めるときに、停止ボタンを押します。



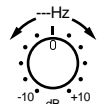
5. スピーカー(1/2)音量を調節する

主音量1/2調節つまみを目盛り位置「8」を目安に調節してください。



7. 音質を調節する

音質を各イコライザー音質調節つまみで調節してください。

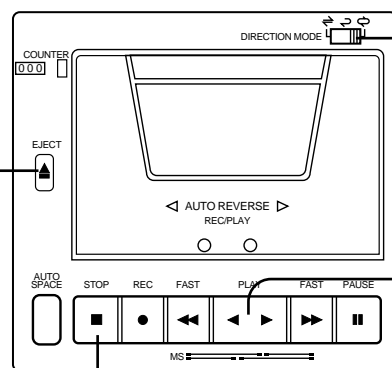


3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。
参照 P.17走行モードについて

4. 走行ボタンを押す

正方向に再生を開始し、走行表示灯(▶)が点灯します。走行ボタンをもう一度押すと、テープが反転し逆方向に再生を開始し、逆方向の走行表示灯(◀)が点灯します。



録音のしかた

1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

メモ

電源投入時にカセットが一瞬動作することがありますが異常ではありません。

2. テープを挿入する

取り出しボタンを押し、カセットホルダーを開きテープを挿入します。

7. 一時停止ボタンを押す

一時停止表示灯 () が消え、点灯している走行方向に録音を開始します。

8.

録音を止めるときに、停止ボタンを押します。

5. 録音ボタンを押す

録音表示灯 () と正方向の走行表示灯 (▶) が点灯し録音待機状態となります。

3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。
参照 P.17 走行モードについて

4. 一時停止ボタンを押す

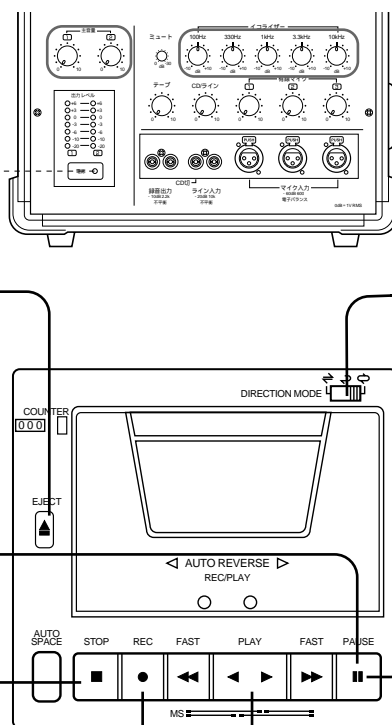
一時停止表示灯 () が点灯します。

メモ

カセットテープの正方向側の誤消去防止つまみだけが折られている場合は逆方向の走行表示灯 (◀) が点灯し録音待機状態となります。正逆両方向の誤消去防止つまみがどちらも折られている場合は録音ボタンを押しても録音状態になりません。

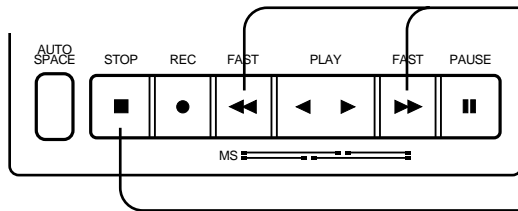
6.

逆方向に録音を開始したいときは走行ボタンをもう一度押してください。逆方向の走行表示灯 (◀) が点灯し、録音待機状態となります。



カセット部の説明

早送り・巻き戻しのしかた

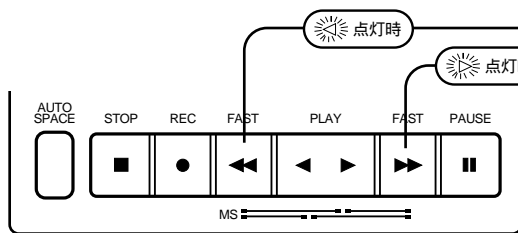


1. 矢印の方向の早送りボタンを押すと、その方向の早送りをします。

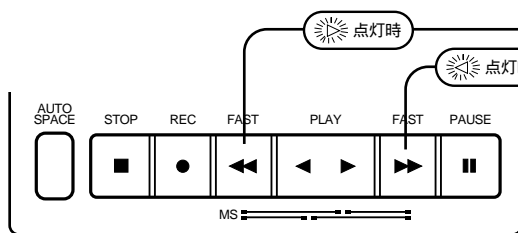
2. 停止ボタンを押すと早送りが解除されテープが止まります。

一曲頭出し（自動選曲）のしかた

一曲頭出し（自動選曲）とは、録音されている曲間の無録音部分を自動的に検出して、曲の始めから再生する機能です。



1. 今聞いている曲の次の曲の頭出しをする場合
再生している方向と同じ矢印の方向の早送りボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。次の曲の始めのところで早送りが解除され再生状態となります。

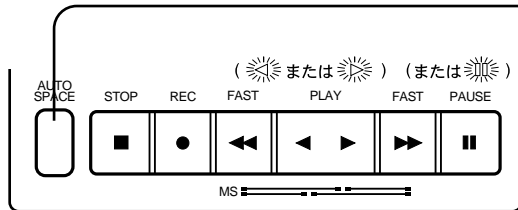


2. 今聞いている曲の頭出しをする場合
再生している方向と反対の矢印の方向の早送りボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。その曲の始めのところで早送りが解除され再生状態となります。

頭出しで再生待機状態にするには
再生中に一時停止ボタンを押して再生待機状態にしてから、上記の1または2の操作をおこなってください。

一曲頭出し録音のしかた

一曲頭出し再生をするには曲と曲の間に3秒以上の無録音部分が必要です。



無録音部分を作るには

録音中あるいは録音待機中の状態で、オートスペースボタンを押します。録音表示灯()が点滅しオートスペース回路が動作中であることを示します。録音テープ走行方向と同じ方向に自動的に約4秒間無録音部分を作って録音待機状態になります。

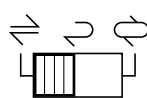
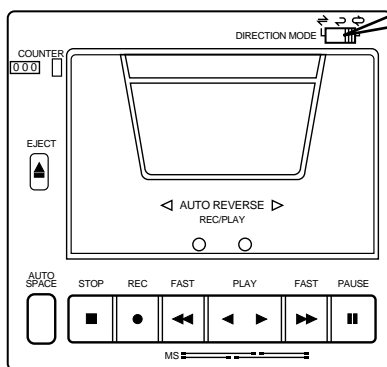
メモ

次のような録音状態のテープは頭出しが正常に動きません。

テープの録音状態	症 状
曲と曲の間に会話や雑音が入っている	止まらない
曲と曲の間の無録音部分が短い(3秒以下)	止まらない
曲の途中で3秒以上の途切れがある	曲の途中で止まる
弱音の多い音楽や、録音レベルが低いもの	止まったり、止まらなかったりする

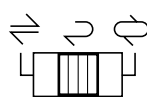
走行モードについて

テープの走行モードとして、再生で3モード、録音で2モードの中から一つ選択することができます。



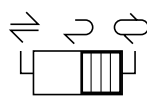
1. 「→」一方向モード

正方向(▶) 逆方向(◀)のいずれでも、現在走行している方向のテープエンドで再生(または録音)を停止するモードです。



2. 「↔」往復モード

正方向(▶)で再生(または録音)をしている場合テープエンドで一度反転し逆方向のテープエンドで再生(または録音)を停止するモードです。逆方向から再生(または録音)を開始した場合はその方向のテープエンドで再生(または録音)を停止します。



3. 「↻」エンドレスモード

再生時に走行方向のテープエンドで反転を繰り返して連続して再生を繰り返します。録音時は往復モードと同じ動作となります。

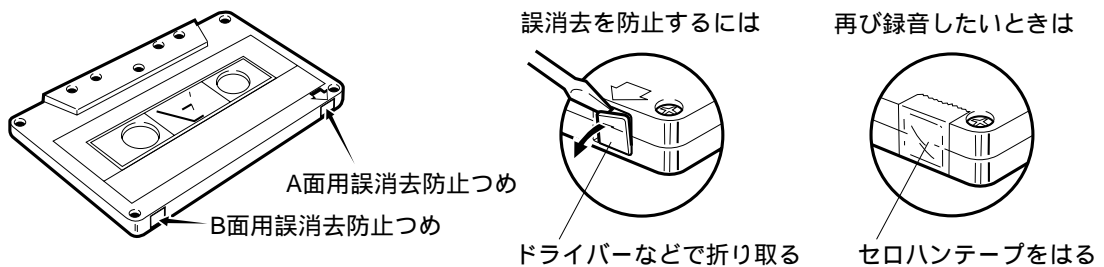
カセット部の説明

カセットテープについて

録音されたテープを誤って消去しないために

貴重な録音を誤って消去しないためにカセットテープには誤消去防止つめが各面用に各1個ついています。このつめを折ると、テープデッキの誤消去防止装置が働いて再録音できなくなります。

つめを折り取ったカセットテープを再び録音したいときは、セロハンテープなどをつめの穴の上にはってください。再録音が可能になります。



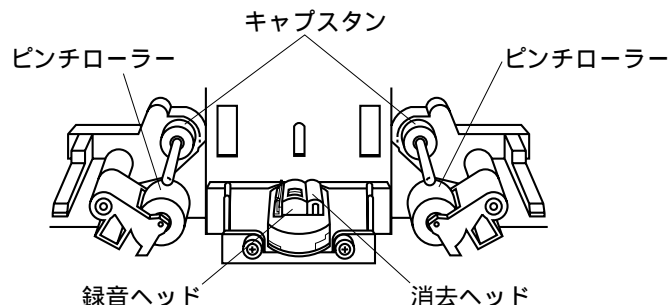
デッキのお手入れのしかた

取り出しボタンを押し、カセットホルダーを開きます。

下方にピンチローラー、キャプスタン、録音/再生ヘッド、消去ヘッドが見えます。綿棒又はやわらかい布でヘッド面やキャプスタン、ピンチローラーを拭き、汚れを取ります。汚れのひどいときは、綿棒又は布に少量のアルコールを浸してふき取ってください。

メモ

- ヘッド部分にドライバー、ペンチなどの鉄類や磁気類を近づけないでください。ヘッドが磁気を帯びますと録音時の雑音の原因になります。
- ヘッドの清掃は力を入れなくてください。
- 本機に注油しますと故障の原因となります。絶対に注油しないでください。



テープのたるみについて

カセットテープをデッキに入れる前にテープがたるんでいないことを確かめてください。もし、たるんでいたら六角形の鉛筆などで下図のようにして、たるみをとってください。たるんだまま使用しますとテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしてテープを傷つけることがあります。

カセットテープのリールを手で回してテープをたるませることも絶対しないでください。

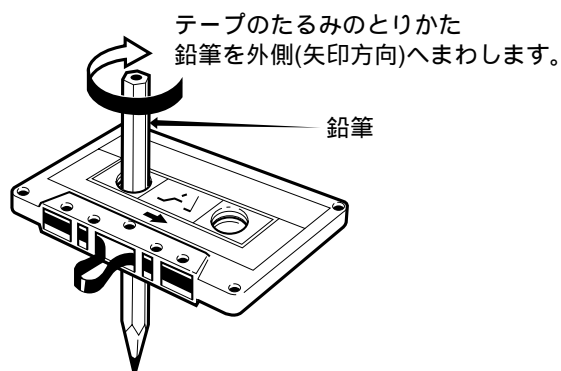
テープの巻きが強いときや、巻むらがあるときは、一度早送り又は巻戻しをしてからご使用ください。

高温、多湿の所や磁気のある所（テレビやスピーカーの近くなど）を避けて保管してください。（テープの最適保管条件は湿度50%、気温24 といわれています）

ホコリの多い所での保管はプラスチックケースなどに収めてください。

メモ

C-120タイプ（120分用）のカセットテープは、ちょっとした不注意でテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしますのでご使用にならないでください。



著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

放送やレコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく著作権法により保護されています。

従って、それらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

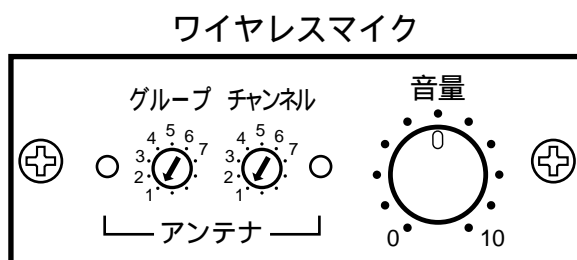
使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）の本部または最寄りの支部へお尋ねください。

チューナーユニットについて

受信グループとチャンネルの設定について

設定には、ワイヤレスマイク、または別売チューナーユニット（WX-D4002）に付属しているドライバーを使用します。

ワイヤレスマイク1とワイヤレスマイク2のグループとチャンネルを、それぞれ使用するワイヤレスマイクと同じグループ、チャンネルに設定する。



チューナーユニットを増設した場合も、同様にグループ、チャンネルを設定します。

メモ

- ワイヤレスマイク1とワイヤレスマイク2（チューナーユニット増設時はワイヤレスマイク1、2、3、4）のグループは同じグループに設定し、チャンネルは異なるチャンネルに設定してください。（異なるグループに設定すると、混信、ビートの原因となります。）
- ワイヤレスマイク1とワイヤレスマイク2（チューナーユニット増設時はワイヤレスマイク1、2、3、4）のグループ、チャンネルを同一にしないでください。（同じグループ、チャンネルに設定するとビートの原因となります。）

別売チューナーユニットの取り付け方法

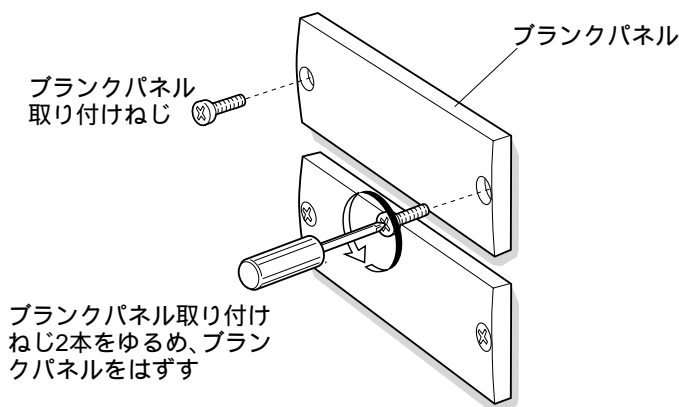
本機は別売のチューナーユニットWX-D4002を2台まで増設し、合計4台まで組み込むことができます。
取り付けは販売店にご相談ください。

1. ブランクパネルをはずす

本機の電源プラグをコンセントから抜き、ブランクパネルをはずしてください。ブランクパネルの裏側には4Pコネクターと同軸コネクター（A）が差し込まれていますので、それらをブランクパネルから取りはずしてください。

メモ

4Pコネクターの取りはずしは、ブランクパネルのロックのツメをはずしてから行ってください。



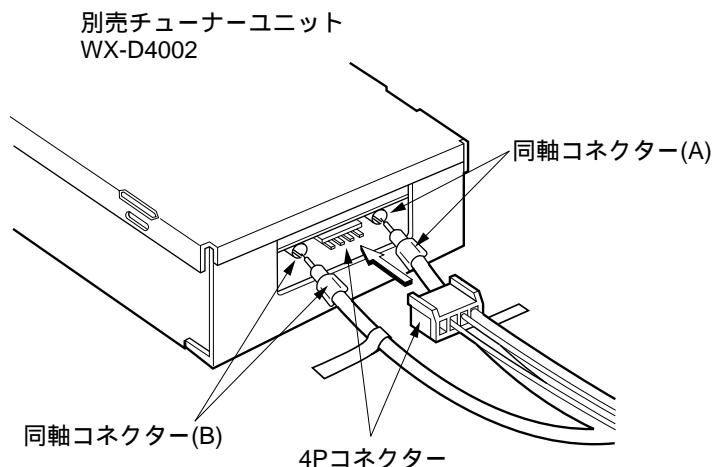
警告

使用中はブランクパネルをはずさない

- ブランクパネルをはずすときは、本機の電源プラグをコンセントから抜く
- 感電の原因となります。

2. 各コネクターをチューナーユニットに接続する

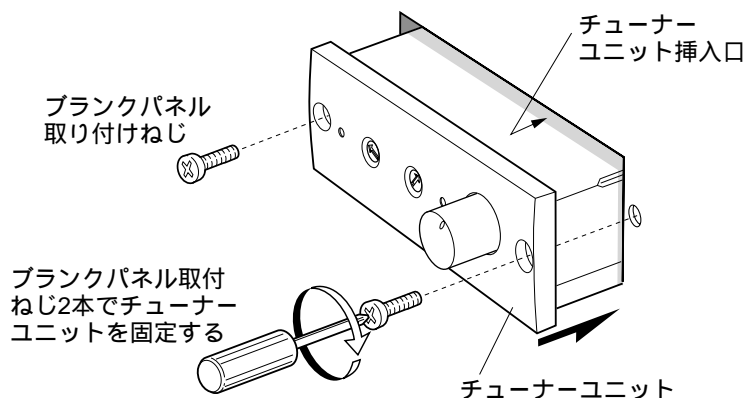
チューナーユニットを組み込む場合は、本機側とユニット側の同軸コネクターおよび4Pコネクターを接続してください。同軸コネクターは必ず、同じ表示（A・B）のものと接続してください。



チューナーユニットについて

3.チューナーユニットを組み込む

チューナーユニットを本機のチューナーユニット挿入口に挿入し、ブランクパネルを取り付けてあった2本のねじで固定してください。



メモ

チューナーユニット挿入時は、接続コードをはさみ込まないようにしてください。

別売チューナーユニット(WX-D4002)仕様

電源	DC12 V (イベントアンプ本体より供給)
消費電力	100 mA (最大)
受信周波数	800 MHz帯 (806.125 ~ 809.750 MHz、30波中1波)
受信方式	PLL制御スーパーヘテロダイン方式、スペースダイバシティ方式
局部発振方式	水晶制御PLL周波数シンセサイザー方式
スケルチ感度	20 dB μ V
トーンスケルチ周波数	32.768 kHz
定格出力	- 30 dBV
ひずみ率	3 %以下
周囲温度	0 ~ +40
寸法	84(幅) × 30(高さ) × 178(奥行) mm
質量	約290 g
付属品	グループ、チャンネル設定用ドライバー

受信周波数表

No.	No. 周波数 (MHz)	グループ(下2桁目)・チャンネル(下1桁目)						7波使用例
		1グループ	2グループ	3グループ	4グループ	5グループ	6グループ	7グループ
1	806.125	B11						B71
2	806.250		B21					
3	806.375	B12						B72
4	806.500		B22					
5	806.625			B31				
6	806.750				B41			
7	806.875			B32				B73
8	807.000		B23					
9	807.125	B13						
10	807.250						B61	
11	807.375			B33				
12	807.500				B42			B74
13	807.625					B51		
14	807.750	B14						
15	807.875		B24					
16	808.000				B43			
17	808.125					B52		
18	808.250			B34				
19	808.375					B53		
20	808.500		B25					B75
21	808.625			B35				
22	808.750					B54		
23	808.875		B26					
24	809.000	B15						
25	809.125				B44			
26	809.250			B36				
27	809.375				B45			B76
28	809.500	B16						
29	809.625					B55		
30	809.750				B46			B77

メモ

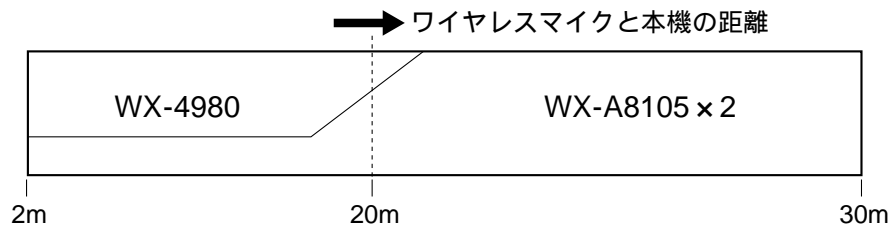
B型ラムサとB型パナソニックはトーン周波数が異なるため共用できません。

アンテナについて

本機は、ワイヤレスマイクの使用距離等に合わせて、2種類の専用アンテナ（別売品）を使用します。

専用アンテナ（ホイップタイプ） WX-4980（別売品 2本1組）
（設置型） WX-A8105（別売品）2本使用します。

ワイヤレスマイクの使用距離とアンテナについて



ホイップタイプアンテナは、狭いエリア（約20m以内）で、使用できます。広いエリアでは、設置型アンテナを使用します。
狭いエリアでも、ホイップタイプアンテナの近くに障害物がある場合は、設置型アンテナを使用します。

ホイップタイプアンテナ(WX-4980)設置上のお願い

本機をホイップタイプアンテナで使用する場合は、専用アンテナWX-4980（別売品 2本1組）を使用します。他のホイップアンテナを使用した場合は正常に受信しない場合があります。

高層ビル内や、放送局、業務電池基地局の近くで使用する場合は、放送電波、業務電波および外来ノイズなどの影響を少なくするため、なるべく遠い位置に本機を設置します。高層ビルの場合は、窓から3m以上離して設置してください。

ホイップタイプアンテナは本体に直接装着し、ワイヤレスマイクの移動する範囲内でアンテナエレメントが見えるように垂直に取り付けてください。

近く（30cm以内）に電線や金属物などがあるところには、本機を設置しないでください。アンテナの受信感度が低下します。

雑音電波を発生させるコンピューターや空気清浄機などからできるだけ遠い位置に設置してください。

アンテナの接続は完全に行ってください。

同じ周波数の妨害波、高周波を使う機器が近くにないか確かめてください。やむをえず雑音源の近くで使用する場合は、ワイヤレスマイクと本機の距離を2～10mにしてください。

なお、2m以内に近づきますと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信など、本機が誤動作することがあります。

やむをえず2m以内で使用する場合は、アンテナ感度切替スイッチ「0 / -10dB」を“-10dB”側に切り替えてください。

別売ワイヤレスアンテナ(WX-4980)仕様

2本1組直付けタイプホイップアンテナ

運用周波数 800 MHz帯

アンテナ型式 5/8 ホイップタイプ

アンテナ利得 2.14 dBi以下

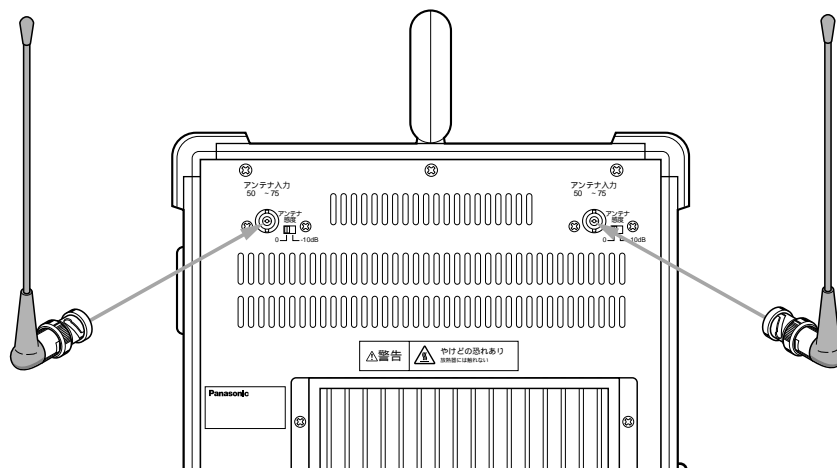
コネクター BNC-Pタイプ

寸法 14.5(直径)×245(高さ)×33(奥行) mm

質量 約30 g/本

ホイップタイプアンテナ(WX-4980)設置のしかた

ワイヤレスマイクの移動する範囲内でアンテナエレメントが見えるように、本機背面のアンテナ端子アンテナ、アンテナに垂直か、やや開きぎみに取り付けます。



設置型アンテナ(WX-A8105)設置上のお願

本機を設置型アンテナで使用する場合は、専用アンテナWX-A8105（別売品）を2台使用します。2台以上のアンテナは接続できません。

他のアンテナ(WX-4960等)は受信方式が異なるため使用できません。

WX-A8105（別売品）の取扱説明書の「設置上のお願」をよくお読みのうえ設置を行ってください。

- 本機のアンテナ入力端子はBNC専用です。WX-A8105に付属のBNCコネクタで接続してください。
- 高層ビル内では外来ノイズの影響を少なくするため、窓から最も遠い位置に設置してください。
- アンテナはワイヤレスマイクの移動する範囲でアンテナが見える位置に垂直に取り付けてください。
- 近くに金属物などがあるところには設置しないでください。
- 雑音電波を発生させる機器から遠い位置に設置してください。
- 同軸ケーブル、コネクタの処理、接続は完全に行ってください。
- ダイバシティ受信効果を発揮するため、アンテナ間隔は5～10mにしてください。

同じ周波数の妨害波、高周波を使う機器が近くにないか確かめてください。やむをえず雑音源の近くで使用する場合は、ワイヤレスマイクとアンテナの距離を2～10mにしてください。

なお、2m以内に近づきますと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信など、本機が誤動作することがあります。

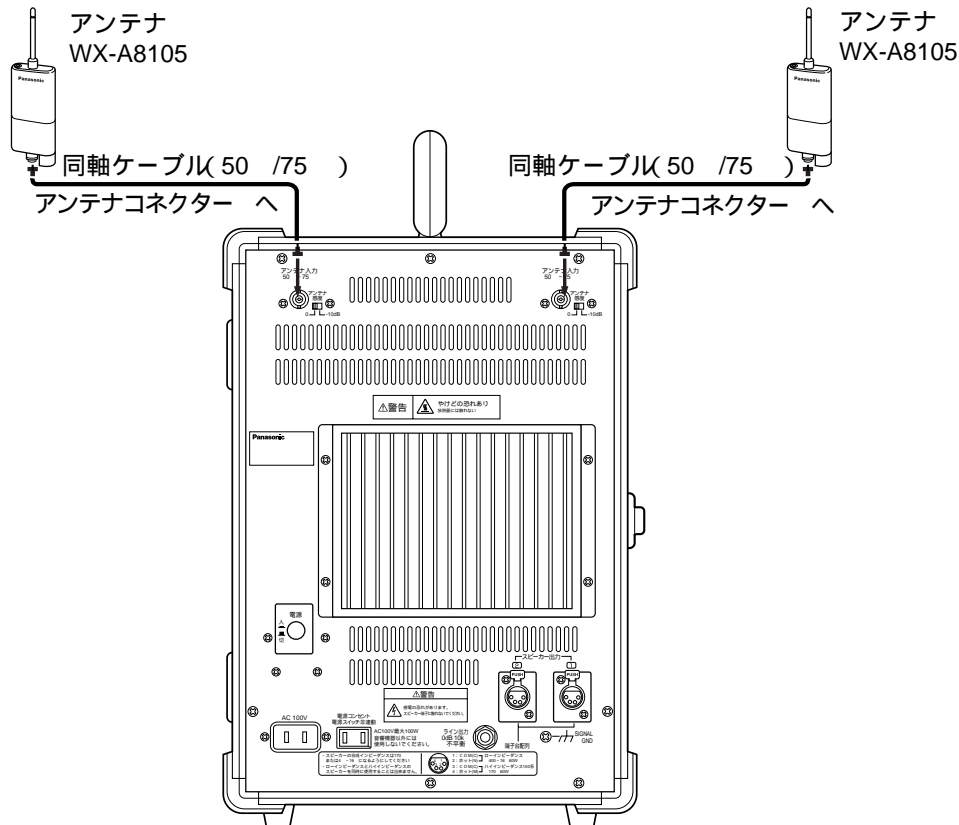
設置型アンテナ(WX-A8105)設置のしかた

アンテナの設置はWX-A8105（別売品）の取扱説明書「設置のしかた」（6ページ）をよくお読みのうえ設置を行ってください。

アンテナについて

設置型アンテナ(WX-A8105)接続のしかた (設置例)

本機が接続できるアンテナは最大2本です。



BNCコネクタと同軸ケーブルとアンテナの感度について

BNCコネクタの処理は、WX-A8105（別売品）の取扱説明書「接続のしかた」（9ページ）をよくお読みのうえ処理してください。

同軸ケーブルは、良質の低損失のケーブルを使用してください。また、50系でも75系でも使用できます。

使用する同軸ケーブルにより、ケーブルの長さが異なります。下表の範囲内で使用してください。

同軸ケーブルの種類	アンテナから本機までの長さ	太さ
5C-2V/5D-2V	20m以内	約 7.3
5C-FB/5D-FB	40m以内	約 7.6

アンテナ内部のアンテナ感度について

本機にWX-A8105（別売品）を接続する場合は、WX-A8105内部のアンテナ利得は、「L 7dB」に固定されています。

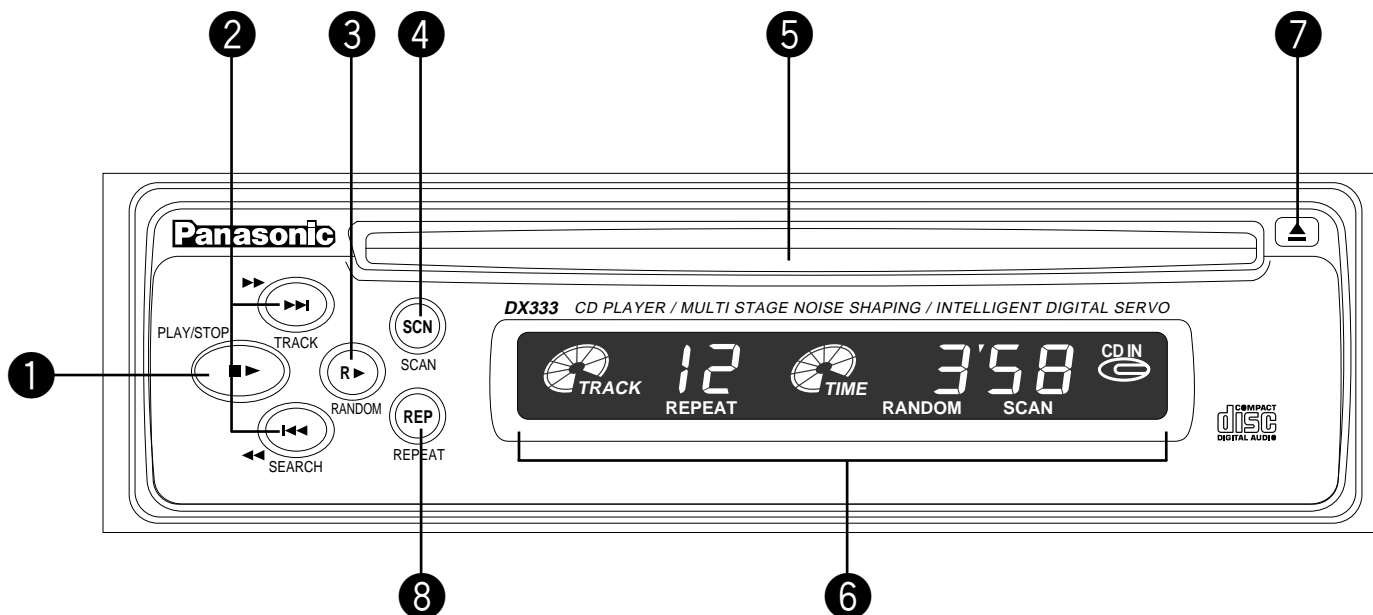
本機の背面にある、アンテナ感度切替スイッチ0dB/-10dBは、有効です。

使用状況等により、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生する場合は、-10dBに切り替えてください。この場合はワイヤレスの使用距離が短くなります。

参照 P.10アンテナ感度切替スイッチ

CD部の説明

各部の名前と働き



① ▶(CDプレイストップ)ボタン

押すと、CDの演奏を開始します。
再度押すと、演奏を停止します。

② ◀◀TRACK▶▶(トラックアップ/ダウン)ボタン

押して、好みの曲(トラック)を選択します。
▶▶ 押すと、次の曲の頭に移ります。
◀◀ 押すと、現在の曲の頭に移ります。

③RANDOM(ランダムプレイ)ボタン

押すと、曲をランダムに演奏します。

⑤ディスク挿入口

CD(ディスク)を挿入するところです。

⑦ (イジェクト)ボタン

押すと、CD(ディスク)を取り出せます。

② ◀◀SEARCH▶▶(サーチ)ボタン

押して、好みの箇所を選択します。
▶▶ 押すと、曲を早送りします。
◀◀ 押すと、曲を早戻しします。

④SCAN(スキャン)ボタン

押すと、各曲のはじめの部分を次々と頭出しします。

⑥ディスプレイ

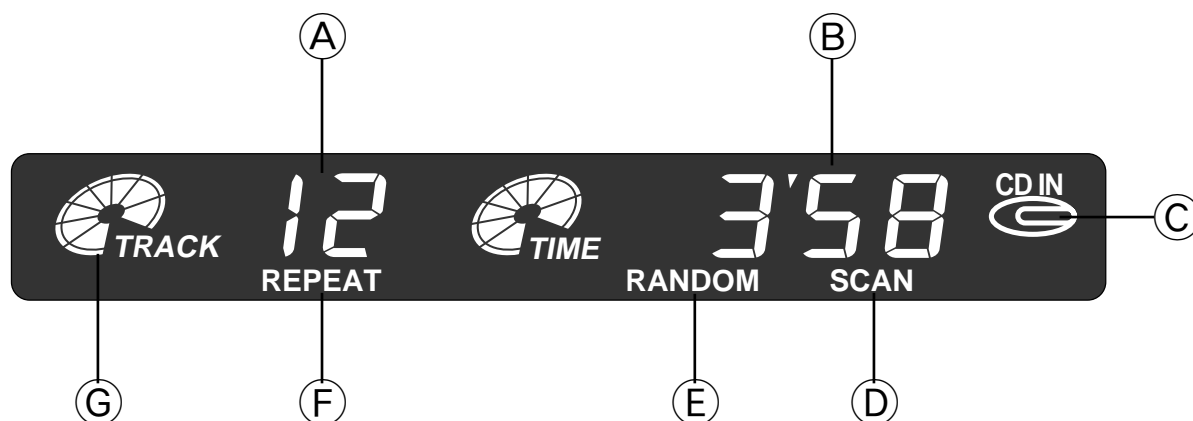
操作時の状態を表示します。

⑧REPEAT(リピート)ボタン

押すと、現在演奏されている曲を繰り返し演奏します。

CD部の説明

ディスプレイ表示



① TRACK(トラック)インジケータ

演奏中の曲(トラック)番号を表示。

② 経過時間インジケータ

ディスクの演奏時間(分、秒)を表示します。

③ ディスク挿入インジケータ

ディスクが挿入されているときに点灯。

④ SCAN(スキャン)インジケータ

スキャンプレイのとき点灯。

⑤ RANDOM(ランダム)インジケータ

ランダムプレイのときに点灯。

⑥ REPEAT(リピート)インジケータ

リピートプレイのとき点灯。

⑦ モードインジケータ

ディスクの演奏状態を表示。

上手な使いかた

ディスクを装着したまま、電源を“切”にすると、再度電源“入”にしたとき、ディスクがイジェクトします。

使用を中止して、電源を“切”にするときには、ディスクを取り出すことをおすすめします。

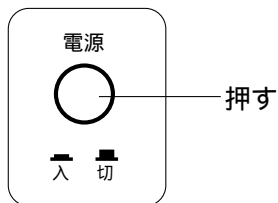
エラーディスプレイ

E1	ディスクが汚れている、または裏返しになっているときに表示。この場合、自動的にイジェクトする。
E2	ディスクに傷がついているときに表示。この場合、自動的にイジェクトする。
E3	何らかの原因でセットが動作しないときに表示。 (お買い上げの販売店にご相談ください。)

操作のしかた

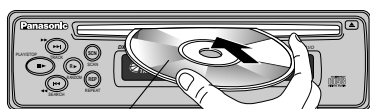
CD(ディスク)の挿入・演奏開始

1




本体後面の電源スイッチを「入」にします。
(前面の [電源表示灯] が点灯します)

2

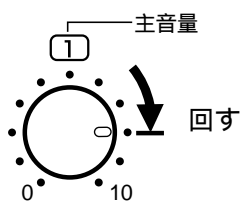


ラベル面を上にして
挿入します。

CDの文字面を上にして挿入すると、ディスクが自動的にセットされ、最初の曲から演奏を開始します。

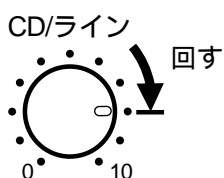
- すでにCDが入っているときは「」が点灯しています。
CDは入れられませんので無理に入れしないでください。
- シングルCD(8cmCD)はアダプターを付けずに入れてください。

3



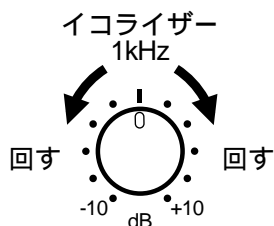
主音量1/2調節つまみを目盛り位置「8」(時計の3時位置)を目安に調節します。

4



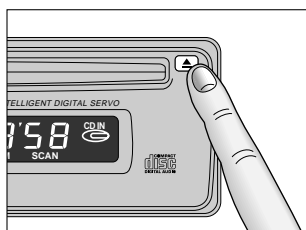
CD/ラインつまみを回して音量を調節します。

5



音質をイコライザー音質調節つまみ(100Hz/330Hz/1kHz/3.3kHz/10kHz)で「+」または「-」方向に回して調節します。

CDを取り出す

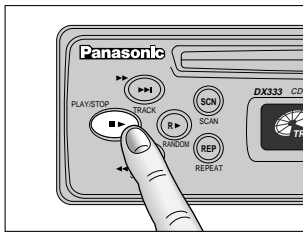


▲を押すと、CDの演奏が止まり、CDがディスク挿入口からイジェクトされます。

EJ

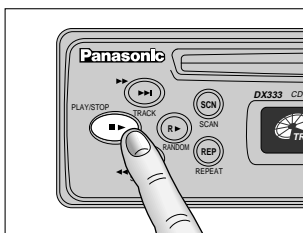
CD部の説明

演奏を止める（演奏の一時停止）




CD演奏中に ▶(PLAY/STOP)を押すと演奏を一時停止し、もう一度押すと再び演奏を開始します。

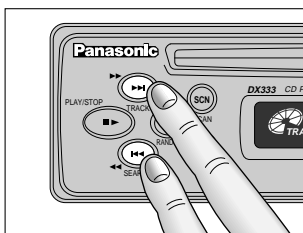
すでに入っているCDを聴く



▶(PLAY/STOP)を押すと演奏を開始します。

- すでにCDが入っているときは「」が点灯しています。

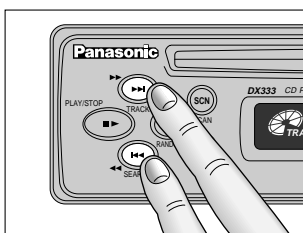
曲を選ぶ（トラックの選択）



トラックを選択し、曲の頭出しをします。

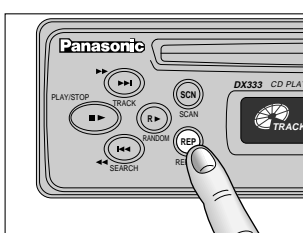
- ▶▶ 押すと次の曲（トラック）の頭に移動し、演奏を開始します。
- ◀◀ 押すと現在演奏中の曲の頭に戻り、演奏を開始します。続けて2回押すと前の曲の頭に戻り、演奏を開始します。

早送り/早戻しをする（トラックのサーチ）



- ▶▶(▶▶) 0.5秒以上押すと早送りし、離すとその位置から演奏を開始します。
- ◀◀(◀◀) 0.5秒以上押すと早戻しを行い、離すとその位置から演奏を開始します。

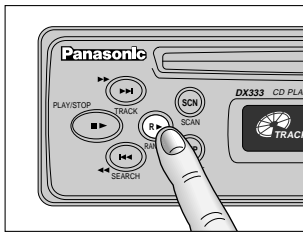
繰り返し演奏する（リピート演奏）



- REP(REPEAT)を押すと、現在演奏中の曲が終了したとき、自動的にその曲の頭に戻り、繰り返し演奏します。
- もう一度押すと解除されます。



ランダムに連続演奏する (ランダムプレイ)



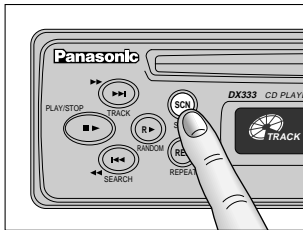
- R▶ (RANDOM)を押すと、現在演奏中のディスクの中でランダムに自動選曲し、連続演奏します。
- もう一度押すと解除されます。

メモ

ランダムプレイの曲の演奏順序はセットに内蔵されたコンピューターがランダムに選択します。

RANDOM

聴きたい曲を探す (スキャンプレイ)



- SCN(SCAN)を押すと、スキャンモードになり、各曲(トラック)の頭の部分を順次10秒ずつ演奏します。
- 聞きたい曲があった場合、もう一度押すとスキャンが解除されます。

メモ

スキャンを開始した曲の前までスキャンすると、自動的に解除されます。

SCAN

ご使用になる前に

確認事項

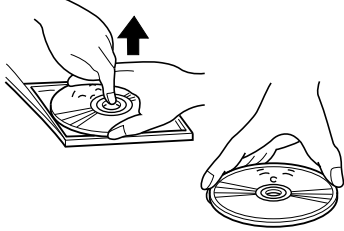
本機は “  ” 表示のあるコンパクトディスクにのみ使用できます。

使用上のお願い

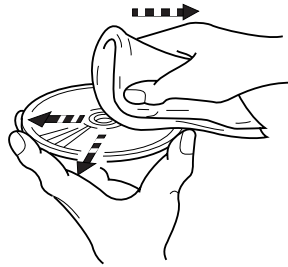
- 冷えた場所から急激に温度が高くなる場所へ移動し、すぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品が曇って(細かな水滴が付いて)正常な動作を行わないことがあります。ディスクが曇っているときは、柔らかい布でふいてください。光学部品が曇っているときは1時間ほど放置しておくとも自然に曇りがとれ正常に動作します。
- 本機を傾けた状態で使用すると正常に動作しないばかりでなくメカニズム内部で引っ掛かりなどが発生し、ディスクに傷を付ける場合があります。
- CD挿入口からのディスクの出し入れは無理に行わないでください。本機の故障やディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスク走行中あるいはディスクをイジェクトしている状態で電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりしますと、ディスクが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントに差して、再度電源スイッチを入れてディスクを取り出してください。

コンパクトディスクの取扱いについて

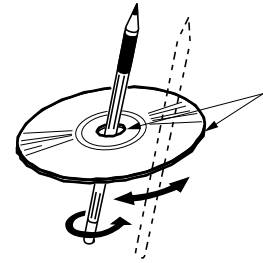
コンパクトディスクの取扱いかた



保護ケースからコンパクトディスクを取り出す場合、図のようにケース中心部を押し、コンパクトディスクの両端を持ってください。また、ディスク面には直接手を触れないようにしてください。

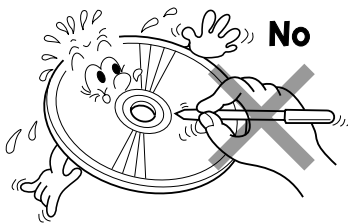


コンパクトディスクをふく場合は、乾いた柔らかい布で図のように、中心から外に向かってふいてください。

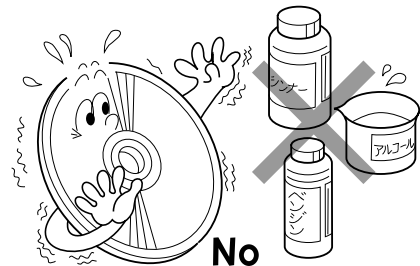


新しいディスクには、ディスクの周囲に“バリ”が残っていることがあります。このようなディスクをご使用になると、動作しなかったり音飛びの原因となります。ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。

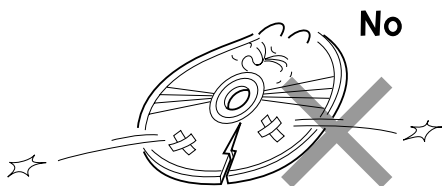
コンパクトディスク使用上の注意



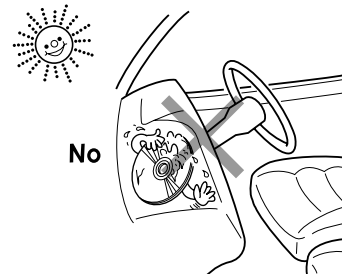
ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどでキズをつけたりしないでください。



コンパクトディスクは、きれいなものをご使用ください。もし、汚れている場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、シンナー、ペンジン、アルコールなどは絶対に使用しないでください。



大きいキズ、変形、ヒビなどがあるコンパクトディスクは使用しないでください。誤動作や故障の原因となる場合があります。



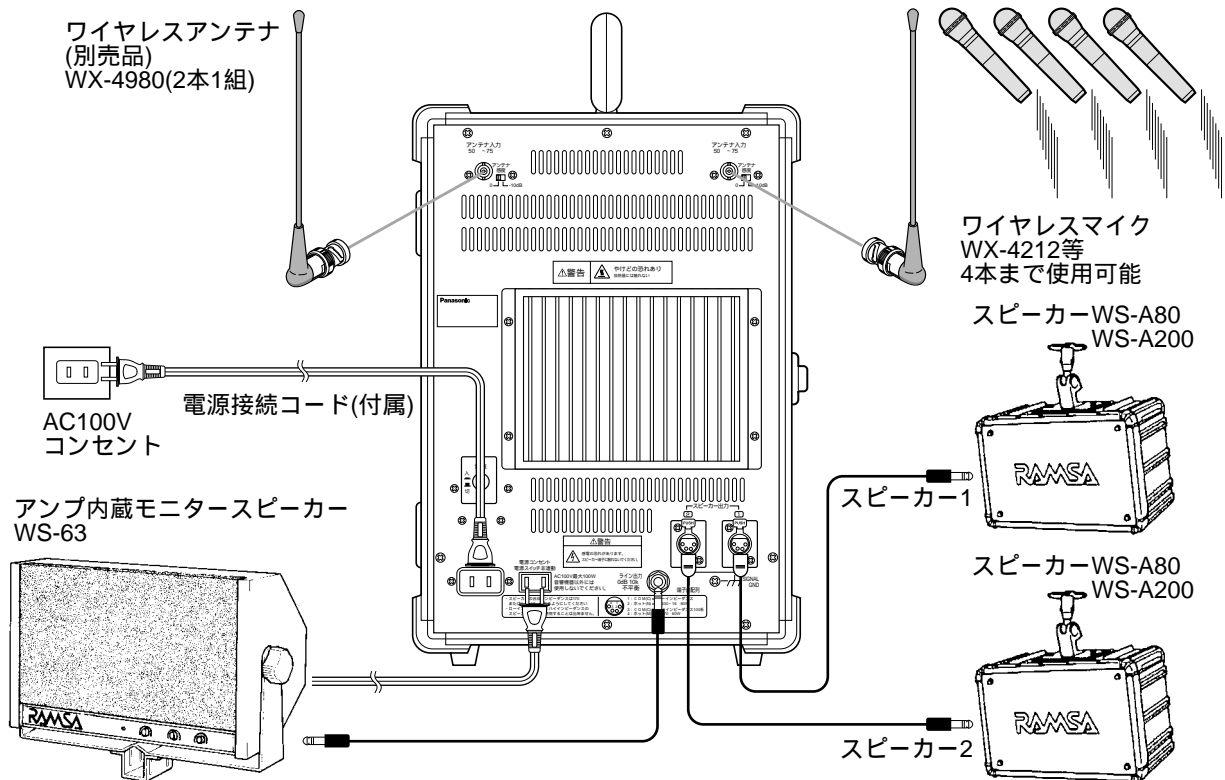
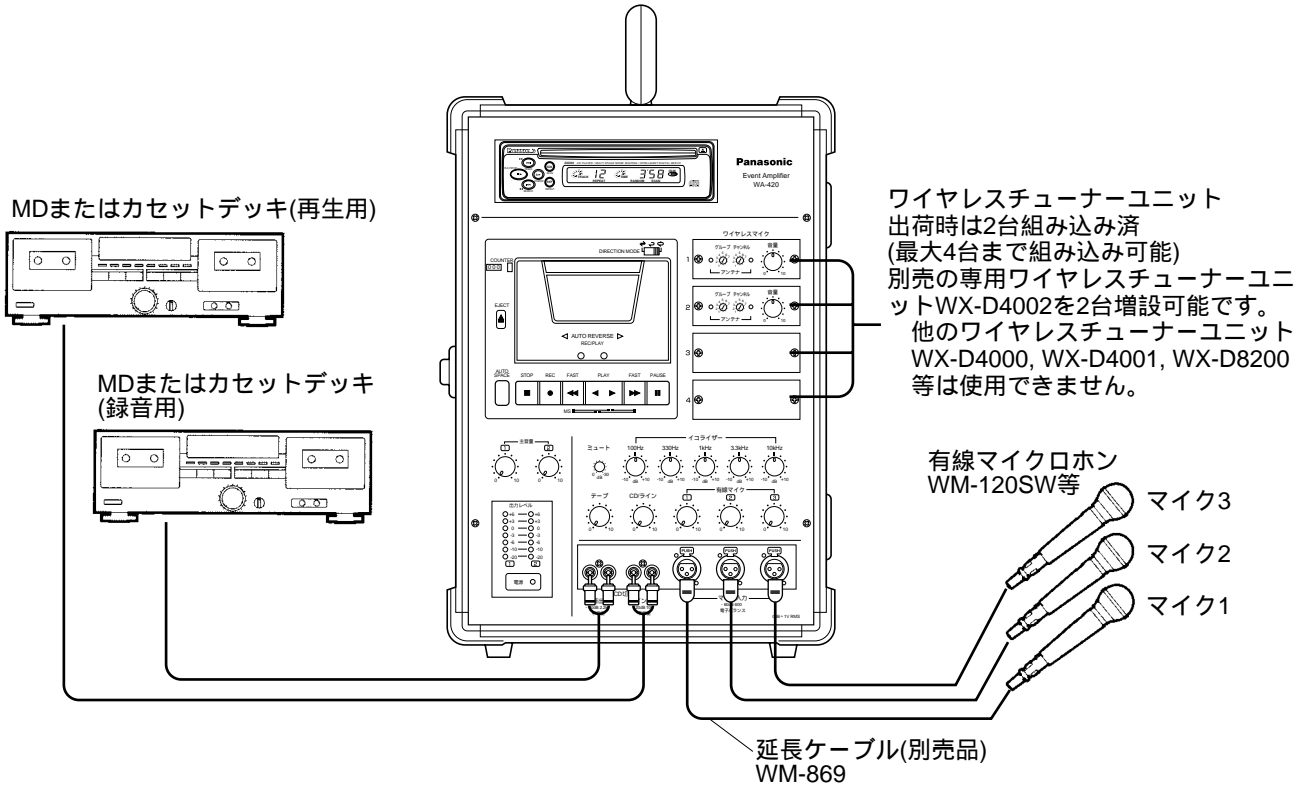
コンパクトディスクは熱に弱いので、直射日光のあたる場所やヒータなどの近くに置かないでください。

メモ

市販のCD保護シートや、スタビライザなどを装着したディスクは使用しないでください。メカニズム内部で引っ掛かりなどが発生し、ディスクを傷つける場合があります。

接続例

(下記以外の接続については、販売店などへご相談ください。)



操作のしかた

付録

点検方法

本体部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声が 出てこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	マイクプラグを確実に差し込んでください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
スピーカーより音がでない	スピーカー接続コネクタは確実に接続されていますか。	スピーカー接続コネクタを確実に接続してください。
	主音量(1/2)調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
音がわる	出力レベルメーターの赤色LEDが常時、点灯していませんか。	赤色LEDが常時、点灯しないように音量を調節してください。
音質がおかしい	正しくイコライザーが使用されていますか。	イコライザー調節つまみの説明をよく読んで調節してください。
雑音が出る	本機やスピーカーコード、マイクコードなどがノイズを発生する機器の近くにありませんか。	ノイズを発生する機器から遠ざけてください。
外部機器の音が出ない・小さい	接続機器及び本機の入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	ライン入力の説明をご覧ください。

カセット部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
テープが走行しているのに音が出ない	未録音のカセットテープがセットされていませんか。	確認してください。
	カセット音量つまみが「0」になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
前回に録音した音がときどき出る	前回、本機で録音された場合	消去ヘッドを清掃してください。(P.18のデッキのお手入れのしかたを参照)その後、録音をやり直してください。
	前回、他機で録音された場合	録音をやり直してください。
音がかすれたり、ふるえたり、また録音がきれいにできない	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッドが汚れていませんか。	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッド部を清掃してください。(P.18のデッキのお手入れのしかたを参照)
	テープが傷んでいませんか。	別のテープと取り替えて問題がなければ、新しいテープと交換してください。
録音ボタンを押しても、このボタンが動作しない	カセットテープの誤消去防止つめが折り取られていませんか。	誤消去防止つめが折り取られていれば、溝にセロテープを貼ってください。(P.18の録音されたテープを誤って消去しないためにを参照)
自動選曲ができない	録音の方法を誤っていませんか。	P.16の一曲頭出し(自動選曲)録音のしかたを参照

CD部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	ディスプレイ表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
演奏時間は進んでいるが音声がでてこない	CD/ライン音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	ライン入力端子にピンジャックが接続されていませんか。	接続をはずしてください。
CDが入らない	本機の中にCDが入っている。	イジェクトボタンを押して、CDを取り出してください。
CDがすぐ出てしまう	CDを裏表逆に入れていませんか。	CDのレーベル面を上にして入れてください。
	シングルCD用アダプターを使用していませんか。	シングルCD用アダプターを取り外して、入れてください。
CDがイジェクトできない	極端な電源変動による誤動作、または機構の誤動作。	販売店などへご相談ください。ドライバーなどで無理に取り出さないでください。
音飛びする、ノイズなどが入る	CDが汚れている。	CDを柔らかい布でふいてください。
	CDに傷やそりがある。	傷やそりの無いCDに交換してください。

チューナー部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの音声がでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクの電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗もチェックしてください。
	マイクとチューナーユニットの周波数は同じですか。	グループ/チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスチューナーユニットの音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。



警告

上記の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。

キャノンタイプコネクターの説明

本機のマイク入力端子とスピーカー出力端子はキャノンタイプ (XLR - 3 - 31 / XLR - 4 - 31相当) です。



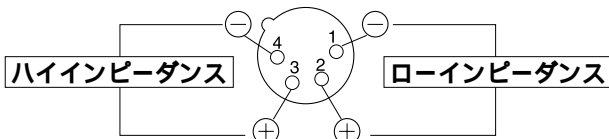
注意

配線を間違えない、ショートさせない

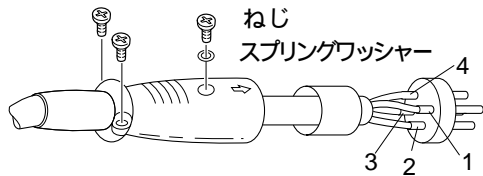
●機器の損傷や火災・感電の原因となります。

結線図

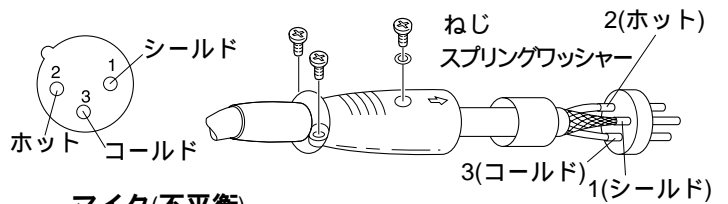
スピーカー出力用(XLR-4-12C相当)



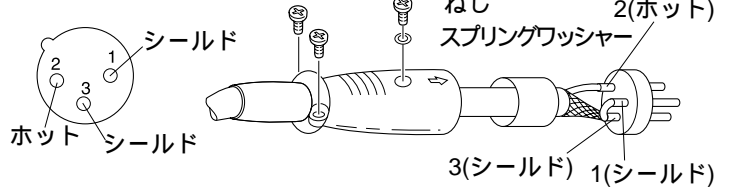
ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。



マイク入力用(XLR-3-12C相当)
マイク(平衡)

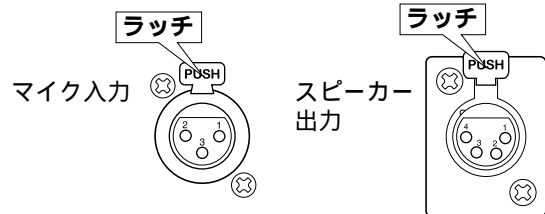


マイク(不平衡)



接続のはずし方

キャノンタイプコネクターの接続をはずされるときは、本機側のコネクターのラッチを押しながらか抜いてください。



仕様

本体部

使用電源	AC 100 V 50/60 Hz
消費電力	110 W (電気用品取締法による測定方法に基づく)
定格出力	60 W × 2
出力負荷インピーダンス	170 Ω × 2 平衡 4 Ω (4 ~ 16 スピーカー使用可能) × 2 不平衡 XLR-4-32相当
録音出力	約 - 10 dB 2.2 k Ω 不平衡
ライン出力	約 0 dB 10 k Ω 不平衡
ひずみ率	1 % (1kHz定格出力時)
周波数特性	50 Hz ~ 18 kHz 偏差 ± 3 dB (ライン入力 定格出力 - 10 dB時) 100 Hz ~ 10 kHz 偏差 ± 3 dB (有線マイク入力 定格出力 - 10 dB時)
音質特性	100 Hz/330 Hz/1 kHz/3.3 kHz/10 kHz 5ポイントイコライザー ± 10 dB (LINE入力 各周波数ポイント基準)
入力感度およびインピーダンス	有線マイク1 ~ 3 : 約 - 60 dBV 600 Ω 電子バランス 音量調節器付 XLR-3-31相当 ライン : 約 - 20 dB 10 k Ω 不平衡 音量調節器付
信号対雑音比	65 dB以上
アンテナ入力	BNCコネクター × 2 アンテナ感度切替スイッチ付 ファンタム電源 (9.3 V 35 mA、別売WX-4980, WX-A8105専用)
動作表示	電源 : LED(赤)、出力表示 : LED(緑 × 4/赤 × 3)2系統
付属機能	優先放送機能(減衰量調節付) : 有線マイク、ワイヤレス入力によりライン、カセット、CD 音量が減衰 リミッタ機能 : 有線マイク、ワイヤレス入力において過大入力時のひずみを軽減
使用温度範囲	0 ~ + 40
仕上げ	パネル(網板) : ガンメタリック色 ケース(アルミニウム製) : 銀色アルマイト仕上げ
寸法	幅304 mm 高さ459 mm 奥行506 mm
質量	約19.5 kg

カセット部

適合テープ	カセットテープ(C-120以上を除く)ノーマルテープ
制御方式	フルロジックオートリバース方式
トラック方式	2トラック 1チャンネル モノラル
録音方式	オートレベル交流バイアス方式
消去方式	交流消去方式
テープ速度	4.76 cm/秒
ワウ・フラッタ	0.2 %WRMS
巻き戻し、早送り時間	約120秒 (C-60テープ使用時)
付属機能	テープカウンター、一時停止、無録音オートスペース、走行モード選択 表示 : 録音 : 赤、再生 : 緑、一時停止 : 黄

CD部

ディスク	コンパクトディスク 12cm、8cm
標準化周波数	44.1 kHz
復号化(D/A)	16ビット直線
ワウフラッタ	測定限界以下
付属機能	表示 : LCD表示 ランダムプレイ、スキャン、サーチ、リピート機能

メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

移動(輸送)時について

必ず前面と後面にふたを確実に取り付けてください。
移動時に横倒しにしたり、上下逆に置かないでください。故障の原因となります。

付属品

電源コード1本
スピーカーコネクター2個

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お 買 上 げ 年 月 日	年	月	日	品番	WA-420
販 売 店 名	☎ () -				

松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社 AVシステム事業部
〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎ (045)932-1231(大代表)

N0798-1079

A8QA5065BN